

研究 主題	主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合う生徒の育成を目指して ー単元学習計画の作成・活用と自己の学びを追究する時間の設定を通してー
----------	--

第2学年英語科学習指導案

指導月日 令和4年10月21日
 所属校名 白石市立福岡中学校
 氏名 高野 弓絵

1 単元名「Unit5 Universal Design」（東京書籍 NEW HORIZON English Course 2）

2 単元の目標

ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、調べたことについてメモを基に話し、相手に質問をしたり、相手からの質問に即興で答えたりすることができる。「話すこと [やり取り]」

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領外国語編「1 目標(3)話すこと[やり取り]」に示されている事項のうち、イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」に基づいている。

題材の内容として、製品化されたユニバーサルデザインの事例や身近な施設での採用例、ユニバーサルデザインの提唱者であるロナルド・メイスの功績が取り上げられている。

言語材料として、「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」「主語＋動詞＋間接目的語＋how（など）to 不定詞」「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」の文構造を扱う。これらの文構造を理解することにより、ものの使い方などを説明したり、自分の気持ちとその原因を伝えたりすることができるようになる。

単元の最終の言語活動として、ユニバーサルデザインについてその良さを整理して話し、相手に質問をしたり、相手からの質問に即興で答えたりするというやり取りの場面を設定する。そのやり取りを通してユニバーサルデザインがあらゆる人にとって役立つものであることに気付かせる。また、授業実践後となる11月には、オーストラリアの中学生とのオンライン交流会を予定している。日本のユニバーサルデザインについて伝えるという目的を設定し、本単元での学びを実際のコミュニケーションの場で生かすことができるようにする。

4 生徒の実態 [第2学年1組22名]

本学級は英語で対話をするのが好きな生徒が多く、ペア活動にも意欲的に取り組んでいる。中には極度の緊張のあまり、自分の思いや考えを表現できずにいる生徒が複数おり、そのような生徒への配慮も必要である。以下は7月に行った意識調査とパフォーマンステストの結果である。

(1) 「話すこと [やり取り]」に関する意識調査（調査人数20人）

1 英語で対話をするときに気を付けていることはありますか。(複数選択可)				
アイコンタクト 9人	はっきりした声 11人	英語で反応 14人	ジェスチャーで反応 16人	
対話の継続 10人	何も意識していない 0人	その他 3人		
2 英語による対話で、以下のことがどのくらいできていると思いますか。				
	できている	どちらかと言えはできている	どちらかと言えはできていない	できていない
(1) その場で考えて、即興で自分の考えを伝えたり相手に質問したりする。	0人	9人	9人	2人
(2) 一問一答で終わらず、話を続けている。	2人	8人	9人	1人
(3) 相手の話を聞き、レスポンスをしている。	12人	6人	1人	1人
3 2で評価の低かった項目を踏まえて、今の自分には何が必要だと思いますか。(自由記述・複数回答可)				
・英語力の向上 7人 : 文構造の理解, 語彙, 聞き取る力, 発音				
・相手意識 9人 : 聞き取りやすい声, アイコンタクト, 英語によるレスポンス				

・対話の継続・発展 7人：即興性、相づちの後に対話を続けること				
4 英語による対話の仕方を身に付ける上で、あなたは今、どれに当てはまりますか。				
	できている	どちらかと言えはできている	どちらかと言えはできていない	できていない
(1) 目標に向けて自分がどんな学習を進めていけば良いか知っている。	6人	9人	5人	0人
(2) 自分なりの学習計画を作成することができる。	2人	8人	7人	3人

この意識調査から、対話をするときに気を付けていることとして、「英語による反応」「ジェスチャーによる反応」を挙げている生徒が多く、相手の話に対して何らかの応答をしようとしていることが分かる。また、今の自分ができていることとして、90%の生徒が「相手の話を聞き、レスポンスをしている」と回答しており、意識していることを実践している様子もうかがえる。しかし、即興性や対話の継続・発展については、約半数の生徒が不十分であると回答している。特に即興性については、「できている」と自信を持って答えた生徒はいなかった。対話をする上で今の自分に必要なこととして、「英語力の向上」の他に「相手意識」「対話の継続・発展」を挙げている。

学び方に関する調査項目では、やり取りの力を身に付けるための学習方法を知っている生徒は75%に達し、いろいろな学び方の中から自分に合った学習方法に気付き始めていることがうかがえる。しかし、自分に合った学び方には気付いているものの、半数の生徒は、単元を通してどのように学びを深めていくか計画することはできていないと感じている。

(2) パフォーマンステストの結果

7月に実施したパフォーマンステストは、将来の職業について考えるために、自分の得意なことやしてみたいことなどを整理して話したり、相手のことをより深く知るための質問をしたりすることができることを目標としている。「思考・判断・表現」の評価では、3つの条件（①自分の得意なことやしてみたいことについて述べている。②相手のことを知るために質問をしている。③対話表現を使って対話を継続させている。）を満たしてやり取りをしていればBとした。結果を見ると、B以上の生徒が73.6%で、職業に関することや普段頑張っていること、興味を持っていることなどを含めながら、自分のことについて3文以上話すことができていた。また、聞く側も相手の話に沿った質問をし、うなずきながら話を聞くなど、相手意識を持ってやり取りをしている様子が見られた。しかし、対話の継続・発展への意識はあるものの、非言語コミュニケーションに終始してしまい、つなぎ言葉を用いたり、相手の答えを受けて自分のことを伝えたりしていた生徒は多くはなかった。

5 指導観

本単元の最後に、「ユニバーサルデザインを紹介するイベント会場で、その良さを知ってもらうために、工夫されている点や自分の考えを整理して話したり、相手の質問に即興で答えたりする」を目標にパフォーマンステストを実施する。自分なりの学習計画を作成することを苦手としている生徒が半数いることから、単元を通してどのような学習が必要になるのか個別の単元学習計画を立てさせ、主体的に学びに向かうことができるようにする。教師は生徒の学びに必要な教材を提示したり、生徒の学習進度や理解の度合いに合った学習方法を助言したりして、生徒自らが目標達成に向けて学習調整をすることができるようにする。

生徒の意識調査からは、やり取りにおける即興性と対話の継続・発展が課題として明らかになった。ただし、パフォーマンステストの結果を見ると「思考・判断・表現」の観点では73.6%の生徒がB以上の評価を得ており、自分のことについて伝えるだけではなく、即興で質問をしたり、答えたりすることもできていた。ところが、意識調査では「即興でやり取りすることはできていない」と半数の生徒は感じており、実際の生徒の到達度と意識に大きな乖離がある。そこで、生徒ができていることを認め、励ますために、個別に声掛けをすることで生徒に自信を持たせたい。

また、対話の継続・発展の成果はすぐに表出するものではなく、継続的な指導が必要である。そこで、Small Talk等の場面において、相手の話を受けて一言感想を述べたり、相手の発話を繰り返したり、関連する話題について自分のことを伝えたりするなどして、自分の思いや考えを表現することを意識させる。その際には、良い例を紹介したり、既習表現の活用の仕方を例示したりして、目指すや

り取りの姿を具体的にイメージさせる。

なお、本学級には、個別の支援を要する生徒が複数在籍している。そのような生徒に対しては、個々の課題を明確にした上で、より適切な学習方法を助言し、スモールステップでやり取りができるよう支援する。

6 研究主題との関連

研究主題である主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合う生徒を育成するために、次のような手立てを講じる。

(1) 生徒による単元学習計画の作成・活用

- ・生徒と共に、「話すこと [やり取り]」を継続するために必要となる観点をループリックにまとめ、生徒一人一人に目指す姿を具体的にイメージさせる。
- ・生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにするために、単元の初めに、「話すこと [やり取り]」における目指す姿を踏まえた個別の単元学習計画を立てさせる。
- ・一単位時間における「話すこと [やり取り]」の達成状況を個別の単元学習計画に記録させ、生徒自身に自己の変容を意識させたり、次時の学習課題を明確にさせたりする。また、Google のスプレッドシートに記入させることで、教師の助言により、生徒が学習計画を随時修正できるようにする。
- ・生徒の頑張りを認め、励ますために、個別に支援をしたり、スプレッドシートのコメント機能を使ったりして、生徒が自信を持って「話すこと [やり取り]」をすることができるようにする。

(2) 自己の学びを追究する時間の設定と学習方法・教材の提示

- ・「話すこと [やり取り]」を行う前に自己の学びを追究する時間を設定し、生徒が認知特性や学習の進度に応じて、自分の思いや考えを整理したり、より分かりやすく伝えるために表現を調べたり、対話を継続・発展させるための表現を学んだりすることができるようにする。また、お互いの学び方を紹介し合ったり、ペアで学び合ったりする機会を設け、様々な学び方に触れさせる。
- ・デジタル教科書や、対話表現集、ALTによる映像資料などを生徒用タブレットで共有し、生徒が自分の特性に合わせて自由に活用できるようにする。
- ・生徒の「話すこと [やり取り]」の様子を見取って全体に対して良い例を紹介したり、既習表現の活用の仕方を例示したりする。また、個々の課題を明確にした上で、より適切な学習方法を個別に助言する。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」などを用いた文の構造を理解している。 <技能> ユニバーサルデザインについて、[同上]を用いて伝え、相手に質問をしたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、ユニバーサルデザインについて、工夫点や自分の考えを整理したメモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手からの質問に即興で答えたりしている。	ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、ユニバーサルデザインについて、工夫点や自分の考えを整理したメモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手からの質問に即興で答えたりしようとしている。

(2) 単元の全体計画（11 時間扱い 本時 8 / 11）

○：学習状況の確認 ●記録に残す評価

時	目標 (■), 主な活動 (丸数字)	知	思	主	評価規準 (方法)
1	[Preview] ■本単元での学習内容や単元のゴールを知り、単元学習計画を立てる。 ①ユニバーサルデザインに関する対話を聞いたり、身近な事例を調べたりする。 ②既習の言語材料を用いたやり取りの場面を通して、現時点でのやり取りの学習状況を把握し、単元の学習計画を立てる。【手立て(1)】				
2	[Scene1] ■ユニバーサルデザインのイベントのお知らせを読むことを通して、ものの使い方を伝えることができる。	○			知「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」の文構造を理解し、その表現を使って話している。(観察)

	①お知らせを読み、ものの使い方を伝える表現を理解する。 ②「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」の文構造を理解する。 ③身近な話題についてやり取りをする。				
3	[Scene2] ■ユニバーサルデザインの展示会場での対話文を読むことを通して、人にももの の使い方などを伝えることができる。 ①ユニバーサルデザインの良さに関する対話文を読み、人にももの使い方を伝え る表現を理解する。 ②「主語＋動詞＋間接目的語＋how（など）to 不定詞」の文構造を理解する。 ③身近な話題についてやり取りをする。	○			知「主語＋動詞＋間接目的語＋how （など）to 不定詞」の文構造を理解 し、その表現を使って話している。 （観察）
4	[Scene1] [Scene2] ■外国人に日本の生活雑貨の使い方を紹介するという場面で、学んだ表現を用い てやり取りをすることができる。 ①使い方を表す表現を自分で学習する。【手立て(2)】 ②日本の生活雑貨についてやり取りをする。		○	○	思日本の生活雑貨の使い方を伝え 合っている。（観察） 主日本の生活雑貨の使い方を伝え 合おうとしている。（観察）
5	[Mini Activity] ■料理の仕方や楽器の弾き方など、自分にとって興味のあることについて情報を たずねるという場面で、学んだ表現を用いてやり取りをすることができる。 ①ペアで学び方を紹介し合い、知りたい情報を尋ねる表現を自分たちで学習す る。【手立て(2)】 ②興味のあることについて情報を伝え合う。		○	○	思興味のあることについて情報を 伝え合っている。（観察） 主興味のあることについて情報を 伝え合おうとしている。（観察）
6	[Read and Think1] ■ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読むことを通して、うれしいこ とや確信していることを伝え合うことができる。 ①本文を読み、自分の気持ちとその原因を伝える表現を理解する。 ②「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」の文構造を理解する。 ③うれしいことや確信していることを伝え合う。	○			知「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」の文構造を理解し、そ の表現を使って自分にとってうれ しいことや確信していることを伝 え合っている。（観察）
7	[Scene2] [Read and Think1] ■ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読むことを通して、何かを紹介 するときに参考にできそうな表現を学ぶ。 ①本文の概要を捉える。 ②何かを紹介するときに参考にできそうな表現を自分で学習する。【手立て(2)】 ③②で学習したことを共有する。				
8 (本時)	[Read and Think1] ■ユニバーサルデザインについて、メモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手 の質問に答えたりすることができる。 ①ユニバーサルデザインを紹介するための表現を自分で学習したり、相手への質 問や想定される質問への答えを考えたりする。【手立て(2)】 ②ユニバーサルデザインについて伝え合う。		○	○	思ユニバーサルデザインについて、 メモを基に伝え、相手の質問に答え ている。（観察） 主ユニバーサルデザインについて、 メモを基に伝え、相手の質問に答え ようとしている。（観察）
9	[Read and Think2] ■ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読み、ユニバーサルデザインが 大切な理由を伝え合う。 ①ロナルド・メイスの功績の概要を捉える。 ②ユニバーサルデザインが大切な理由を伝えるための表現を自分で学習する。 【手立て(2)】 ③ユニバーサルデザインが大切な理由を伝え合う。		○	○	思ユニバーサルデザインが大切な 理由を伝え合っている。（観察） 主ユニバーサルデザインが大切な 理由を伝え合おうとしている。（観 察）
10	[Read and Think1] ■ユニバーサルデザインについて、相手への質問を考えたり、想定される相手の 質問の答えを考えたりすることができる。 ①相手への質問や想定される質問への答えを考えたりする。【手立て(2)】 ②ペアを何度も変えてやり取りをする。		○	○	思ユニバーサルデザインについて、 相手に質問したり、想定される質問 の答えを考えたりしている。（観察） 主ユニバーサルデザインについて、 相手に質問したり、想定される質問 の答えを考えたりしようとしてい る。（観察）
11	[Performance Test] ■ユニバーサルデザインを紹介するイベント会場で、その良さを知ってもらいた めに、工夫点や自分の考えを整理して話したり、相手の質問に即興で答えたり することができる。	●	●	●	※『7単元の評価規準「話すこと[や り取り]」』参照。

※【手立て(1)】の振り返りは毎時間行う。

8 本時の計画

(1) 目標

身のまわりのユニバーサルデザインについて、メモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりすることができる。「話すこと [やり取り]」

(2) 本時の指導に当たって

まず、ユニバーサルデザインについて調べたことを分かりやすく伝えるための表現を調べさせたり、やり取りで想定される話題の展開に備えさせたりするために、自己の学びを追究する時間を設定する。自分で調べて身に付けた表現だからこそ、実際に使ってみたいという気持ちが生まれ、主体的に自分の思いや考えを伝え合おうとするのではないかと考える。なお、単元を通して活用できる教材は、既に生徒用タブレットで共有している。それに加えて、本時の学習で活用できそうな教材を準備しておく、生徒が必要に応じて自己の学びに必要となるものを選んで活用できるようにする。これまでの生徒のやり取りの様子から、対話を継続・発展させるためには、話し手の発信が十分でない、聞き手は質問をしたり感想を述べたりするのが難しいことが分かった。そこで、これまでに学んだ言語材料を用いて自分の思いや考えを伝えさせるために、第7時で共有した学びを基にして作成する既習表現活用例シートを新たな教材として活用させる。また、質問例シートを作成し、聞き手はそこから選択して質問をさせる。そして、個々の生徒が抱える様々な学習課題に対応するために、「話すこと [やり取り]」における困り事とそれを解決するための学習方法や教材を示したフローチャートを提示し、自分にとって必要な学習方法や教材が一目で分かるようにする。

実際のやり取りでは、1回目のやり取りの後にペアを抽出して発表させ、全体で共有する場面を設ける。他のペアのやり取りを見ることにより、伝え方や聞き方を修正して、2回目以降のやり取りに生かすことができるようにする。

最後に、個別の単元学習計画に、やり取りの達成度と一言コメントを入力させる。本時のやり取りの達成状況によっては、次時の学習計画を修正する必要もある。自信を持ってパフォーマンステストに臨めるよう、個別に声掛けをしたりコメント機能を活用したりして励ましていく。

(3) 指導過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価(方法)
導入 5分	1 Greeting 教師と挨拶をし、天気、曜日、日付といった簡単な質問に答える。 2 Small talk 身近な話題についてペアで会話をする。	一斉 ペア	 ◎ペアでの会話の後、数名を指名し相手から得られた情報を全体に伝えさせる。	
展開 40分	3 Today's goal 本時の目標と流れを確認する。 身のまわりのユニバーサルデザインについて、メモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりすることができる。 4 Interaction① (1) 紹介したいユニバーサルデザインの特徴をワークシートにメモし、やり取りの準備をする。 (2) ペアでやり取りをする。 ①紹介したいユニバーサルデザインの写真や実物を見せながら説明する。 ②聞き手は相手の話を聞いて、さらに詳しく知りたいことを質問する。 5 Self-study 1回目のやり取りを踏まえ、内容をより分かりやすく伝えたり、相手への質問や想定される質問への答えを考えたりするために、適切な表現を調べたり	一斉 個別 ペア 個別	◎本単元のパフォーマンステストのモデル映像を再度見せ、本時の学習がパフォーマンステストへとつながることを意識させる。 ◎英語でどのように表現するのかをメモさせる。 ◎1回目のやり取りがうまくいかなかったとしても、改善するために学びを追究する時間があるという必要感を持たせる。 ◎「言いたいことを伝えられたか」「質問ができたか」「質問に答えられたか」を振り返らせ、個の課題を明らかにした上で、自己の学びを追究する時間に取り組ませる。 ◎学び方が分からない生徒には、具体的な学習方法や教材を提示し、自分で学びを追究できるようにする。 (対話表現集、対話映像、既習表現活用例シート、質問例シート、やり取り・お助けチャート)	

	発音練習をしたりする。【手立て(2)】 6 Interaction② (1) 再度同じペアでやり取りをする。 (2) 教師からの中間評価を聞いたり、他のペアの例を見たりして次のやり取りに生かす。 (3) 改善点を踏まえ、ペアを何度か変えてやり取りをする。	ペア 一斉 ペア	◎中間評価として、やり取りの様子からの見取りを伝えたり、いくつかのペアを紹介したりして、次のやり取りで改善させる。 ◎やり取りで得た学びが生かされているかを見る。	※☒思 (観察) ※☒主 (観察) ※☒思 (観察) ※☒主 (観察)
	※生徒に話させたいやり取り①(相手が紹介したものに関する質問) A: Look at this picture. This is a bottle opener. If we use it, we can open a bottle easily. I'm sure that it helps many people. B: I see. I want it, too. Where can I buy it? A: You can buy it at Sendai Loft. B: I see. How much is it? A: It's 900 yen. B: Thank you.		※生徒に話させたいやり取り②(自分が紹介したものに関する質問) A: Look at this. Guess what? B: Can I touch it? A: Sure. Here you are. B: Well... I don't know. A: This is a bottle opener. We call it <i>rakuraku</i> opener. Can you always open a bottle easily? B: Not always. A: Thanks to this shape, we can open a bottle easily. I can show you how to use it. (実演する) Try it. B: (使ってみる) Wow! That's a good idea.	
終 結 5 分	7 Feedback 振り返りシートに、本時のやり取りの達成度と一言コメントを書かせる。学習計画の変更があれば次時の計画を修正する。【手立て(1)】 8 Greeting 教師と挨拶をする。	個別 一斉	◎本時の学びを振り返らせ、単元の最後のパフォーマンステストに自信を持って臨むよう励ます。	

(4) 本時の評価

項目	十分に満足できる (A)	評価規準 (B)	努力を要する生徒 (C) への手立て
思考・判断・表現	・Bに加えて、相手意識を持ってやり取りをすることができる。	・ユニバーサルデザインについて知ってもらうために、メモを基にして伝え、相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりすることができる。	・お助けチャートを提示し、何で困っているのか、どうすればよいのかを考えさせる。 ・既習表現活用例シートや質問例シートの中で言えそうな文を選ばせる。
主体的に学習に取り組む態度	・Bに加えて、相手意識を持ってやり取りをしようとしている。	・ユニバーサルデザインについて伝え合うために、メモを基にして伝え、相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりしようとしている。	・少しでも英語で自分の思いや考えを伝えられるようにするために、メモやシートを見ながら話してもよいことにする。

(5) 準備物

- ①教師：教科書、タブレット、電子黒板、単元学習計画 (Google スプレッドシート) [別紙1]、既習表現活用例シート、質問例シート、やり取り・お助けチャート [別紙2]
- ②生徒：教科書、ノート、タブレット、単元学習計画 (Google スプレッドシート) [別紙1]、ユニバーサルデザインの製品か画像

(6) 板書計画

Friday, October 21st sunny Today's goal 身のまわりのユニバーサルデザインについて、メモを基に伝え、相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりしよう 1 Interaction① 2 Self-study 3 Interaction② 4 Feedback	<学び方の例> - やり取りで困ったときにどうしたらよいか分からない →やり取り・お助けチャート - 対話のつなぎ言葉を確認したい、一言感想を述べたい →対話表現集、対話映像 - 対話練習をしたい →準備ができた友達と実践練習 - 質問を言えるようになりたい →質問例シート - 今までに習った表現を使いたい →既習表現活用例シート
---	---

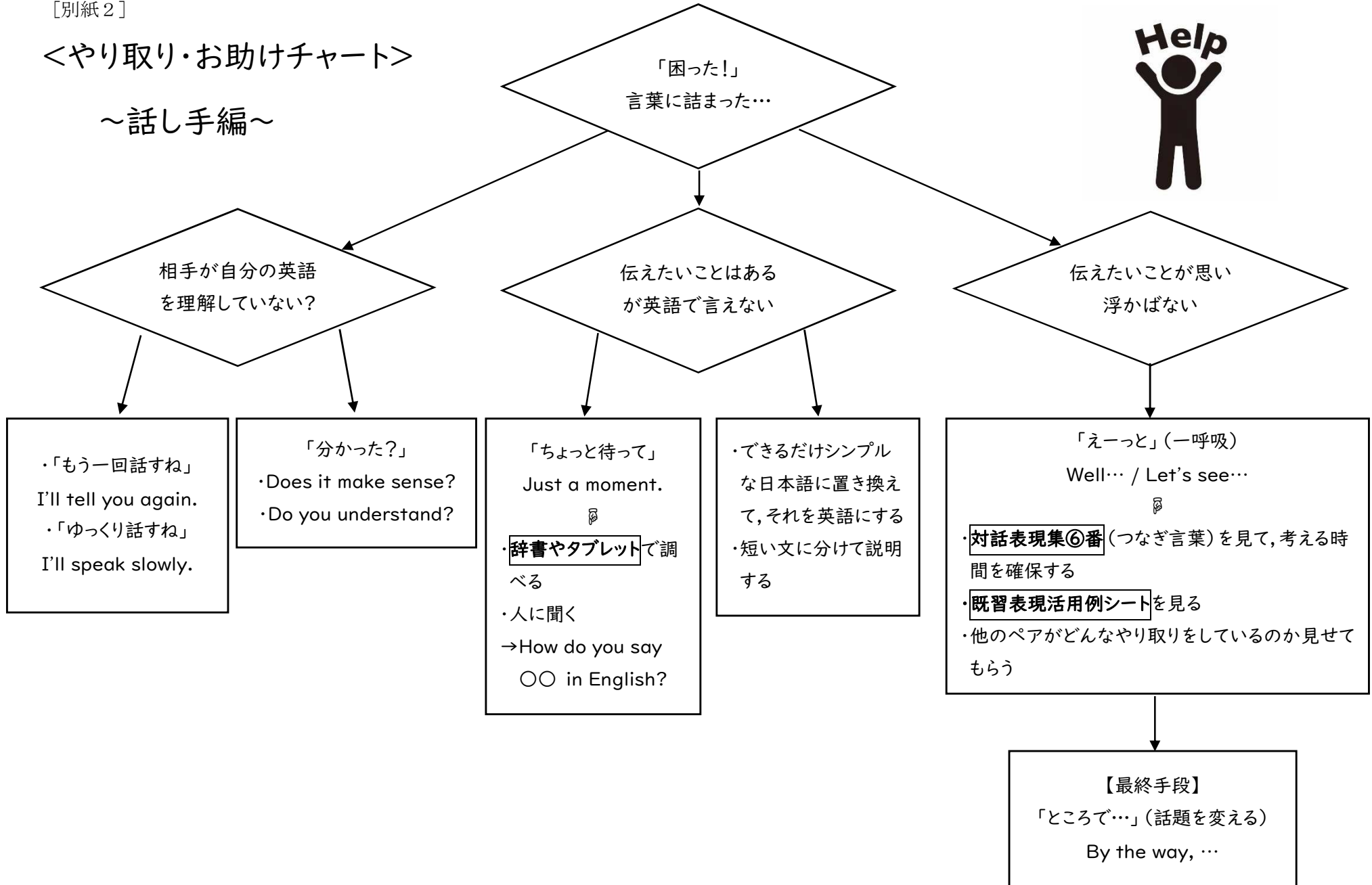
〔別紙1〕

Unit5 Universal Design 単元学習計画			Name		
<活用方法>					
1	授業の終わりに，単元の最初に自分で立てた「できるようになるためにすること」を見て，「対話の達成度」と一言コメントを入力する。				
	A：自力で目標を達成することができた。				
	B：助けやヒントをもらって目標を達成することができた。				
	C：目標は達成できなかったが，自分なりにがんばった。				
2	次の時間の「できるようになるためにすること」欄の入力をする。（文法の定着や対話テクニックの向上につながるような内容にしよう）				
	＊例① 対話を続けるために，対話表現集を見てつなぎ言葉を覚える。				
	＊例② 何かをする方法を伝えるために，基本文をひたすら聞いて書いて覚える。				
	＊例③ 何かをする方法を伝えるために，友達や先生と話す練習を何度もする。				
3	黄色の塗りつぶしは，授業の後半で個別に学習する時間です。最後にペアで対話をします。自分の学びの成果を実践してみよう！				
<「Self-studyの取り組み」の例>					
◆	「正しい英語表現をマスターしたい」				
	→ デジタル教科書で基本文を聞いて言えるようにする，教科書の Practiceを解いて先生に見てもらう，ひたすら書いて覚える， など				
◆	「対話を続けられるようにになりたい」				
	→ Classroomの「対話表現集」を読んで言えるようにする，ALTの対話表現動画を見て練習する，先生やALTと練習する， など				
◆	「発音を知りたい」				
	→ Google翻訳⇒知りたい単語や文を入力⇒「聞く」マークをクリック⇒音声聞くことができる				
◆	「発音を極めたい」				
	→ Googleドキュメント ⇒ ツール ⇒ 音声入力 ⇒ English (United States) ⇒ マイクをクリックして話すと…？ 正しく英語で変換されるかな？				
	・・・その他，オリジナルの学び方，大歓迎！ 友達や先生にも教えてね！				
段階	題材	学習内容・言語材料（※）	できるようになるためにすること	対話の達成度	一言コメント
1	Preview	①単元の学習の見通しを持つ。 ②ルーブリック（評価表）の中の「3つの条件」をみんなで確認する。 ③身近な話題で対話をして，今の対話レベルを把握する。			
2	Scene1	ユニバーサルデザインのイベントのお知らせを読み，ものの使い方などを伝え合う。 ※how to＋動詞の原形「どのように…するか」 ※what to＋動詞の原形「何を…すべきか」			
3	Scene2	ユニバーサルデザインの展示会場のスタッフとメグの対話文を読み，人にもものの使い方などを伝える。 ※主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＋動詞の原形 「（人）に（どのように…するか）を～する」			
4	Scene1 Scene2	日本の生活雑貨の使い方について伝え合うために，学んだ表現を用いてやり取りをする。			
5	Mini Activity	自分にとって興味のあることについて情報をたずねるという場面で，学んだ表現を用いてやり取りをする。			
6	Read and Think1	ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読み，自分にとってうれしいことや確信していることを伝え合う。 ※主語＋be動詞＋形容詞＋that「…してうれしい」「きっと…だ」			
7	Scene2 Read and Think1	これまで読んだ本文の中から，何かを紹介するときに参考にできそうな表現を学ぶ。			
8	Read and Think1	身のまわりのユニバーサルデザインについて，メモを基に伝えたり，相手の質問に答えたりする。			
9	Read and Think2	ロナルド・メイスの功績について書かれた文章を読み，ユニバーサルデザインが大切な理由を伝え合う。			
10	Read and Think1	身のまわりのユニバーサルデザインについて，相手への質問を考えたり，想定される質問の答えを考えたりする。			
11	Performance Test	ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために，工夫されている点や自分の考えを整理して話したり，相手の質問に即興で答えたりする。			

[別紙2]

<やり取り・お助けチャート>

～話し手編～



[別紙2]

<やり取り・お助けチャート>

～聞き手編～

